

学 校 評 価

(1) 令和6年度の学校評価

| | | | |
|-------------------------|---|---|---|
| <p>本年度の 重点目標</p> | <p>(1) 教職員の多忙化解消に向けた取組を行い、教職員が余裕をもって生徒に対することができ環境づくりをする。</p> <p>(2) SSHを中軸に据えた「探究活動」を活かした学びの進化に努め、三つのプラン（トップサイエティスト育成、アントレプレナーシップ育成、グローバルリーダー育成）による本校の強みを踏まえた知の創造を全校的に考えていく。</p> <p>(3) 65分授業による「主体的、対話的で深い学び」の進化及び「カリキュラムマネジメント」を意識した具体的な授業実践を行う。新教育課程における指導と評価の一体化を実現する。</p> <p>(4) 高い志と高い進路目標を掲げて、挑戦する気概と骨太の生徒を育む。</p> <p>(5) 行事や部活動、普段の生活における、自主自律の健全な精神を伸張する。また、美しい校内環境を保ち、様々な悩みを抱える生徒に、きめ細かく積極的に対応する。</p> <p>(6) ICT機器等の活用を創意工夫し、効率的な授業を実践する。</p> <p>(7) 小中学校や地域に、生徒の活躍や本校の魅力を広報し、より志の高い入学者の確保に努める。</p> <p>(8) 生徒一人ひとりの個性をより重視した教育を目指す。</p> | | |
| 項目(担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 留意事項 |
| <p>サービス (教頭)</p> | <p>①在校時間等の状況記録を促して各人が自己の労働時間を意識し、健康障害防止を図れるように努める。</p> <p>②教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・会議、委員会を効率的に行う。 ・部活動ガイドラインの遵守に努め、教員自身の休養日を確保するように促す。 ・定時退校日を計画的に周知することで、仕事の効率を意識させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・できる限り1時間以内で会議が終わるように各分掌主任等と意識を共有する。 ・土日の部活動の活動状況の把握に努め、生徒ともオーバーワークにならないように注意を与える。 ・学校休業日や県民の日学校ホリデーなども適切に活用することで職員が年休を5日以上取得するように努める。また、家族休の取得などワークライフバランスの充実にも努める。 |
| <p>学習指導 (教務部)</p> | <p>①33単位65分授業における「主体的・対話的で深い学び」の追求</p> <p>②デジタル採点システムの適切な運用</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化に向けて、復習weekなどを活用し、形成的な評価が進められるような活動を推進する。 ・授業アンケートや公開授業週間の改善を検討する。 ・活用方法と効率的な運用を検討する | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況に合わせた指導を行えるよう、観点別の評価をしながら、継続的な状況把握に取り組む。 ・授業アンケートと分析結果の利用方法の改善を検討する。 ・公開授業の対象、方法などを再検討する。 ・情報共有をしっかりと行う。 ・システムの利点を生かせるよう、活用できる点はできる限り活用する。 |
| <p>防災・式典 (総務部)</p> | <p>①地震に備えた安全対策の整備。職員・生徒の防災意識の向上</p> <p>②PTA活動の充実と活性化</p> <p>③卒業式を始めとした各種式典の実施方法の検討</p> | <p>防災への意識を高め、安全への知識を深める。訓練を通じて被害時に迅速かつ適切な行動がとれるようにする。</p> <p>自主的な避難行動を行わせる訓練方法を検討する。</p> <p>PTA会員への情報提供</p> <p>専門委員会活動の活性化</p> <p>各式典を、威厳を保ちつつ簡略化する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に「命を守る行動」がとれるような指導を心がける。 ・避難経路図を各教室に掲示し、自主的な行動を考えさせる。 ・防災時の行動マニュアルを職員・生徒ともに周知させる。 ・校外からの情報をPTA会員に役員を通じて情報提供する。 ・専門委員会活動の充実を図る。 ・各式典とも、威厳を保ちつつ簡素化する。 |
| <p>生徒指導 (生徒指導部)</p> | <p>①基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成</p> <p>②部活動の活性化と学業との両立</p> <p>③交通事故防止</p> <p>④ひいらぎ特別支援学校との交流活動の推進</p> <p>⑤いじめの未然防止に係る取組の充実</p> <p>⑥いじめの早期発見、</p> | <p>規則正しい生活習慣を確立させる。</p> <p>携帯電話等の使用ルールを厳守させ、利用モラルを向上させる。</p> <p>練習時間の確保と効率的な練習を追究させ、学業との両立を図る。</p> <p>自転車通学者の交通事故防止に努める。</p> <p>交流活動のさらなる充実を図る。</p> <p>全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、友情や基本的人権に対する理解を深め、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なタイミングで出欠統計を還元し活用してもらおう。欠席・遅刻過多生徒への個別指導を実施する。 ・校内での携帯電話等のルール厳守を徹底する。利用モラルの指導を工夫する。 ・挨拶を励行するとともに、活気のある効率的な活動を目指し、逞しい生徒を育てる。 ・登校指導、下校指導、講話、掲示物等を通じて、交通事故防止の啓発に努める。 ・両校の実態に即して、交流活動をより充実したものにする。 ・生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題として捉えられるようにする。 |

| | | | |
|---------------------------|---|---|--|
| | 適切な事案対処 | 「いじめ・不登校対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者にも周知する。 いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ・不登校対策委員会」の役割を生徒や保護者に周知することで、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりを行う。 生徒が記入しやすいアンケートの様式や実施方法、その後の組織的な対応の在り方について検討する。 |
| 進路指導 (進路指導部) | ①挑戦の志の育成 ②進路データの活用 ③進路情報の発信 | 引き続き難関を目指す指導の継続。 進路指導に関わるデータの活用促進。 進路情報を敏感にキャッチし目線を高く上げる。 | <ul style="list-style-type: none"> 東京大、京都大、名古屋大などの難関層を目指す生徒をバックアップできるように。 様々な進路データを活用した進路指導ができるようにする。 進路LTや進路講演会を活用し、進路だよりやICTを活用した情報発信を行う。 |
| 保健・安全・ 環境教育 (保健部) | ①心身の健康の増進 ②危険を予測し安全に行動できる能力を身につける。 ③環境美化に努め学習環境の向上を図る。 | 健康観察に努める。 感染症予防。熱中症対策。 AED講習会・校内安全点検・危機管理に対する取組を実施する。 ゴミの分別と減量化、資源(廃棄物)の再利用を推進する。 花壇整備など環境の美化活動の活性化をはかる。 | <ul style="list-style-type: none"> 不安・不調を抱える生徒への早期発見、早期対応をめざす。 健康状態を自ら把握できるように指導する。 講習会や安全点検などを実施し、状況の把握と早期対応を図る。 ゴミの分別と持ち帰りの意識を高めるためにポスターなどを作成する。 校内の花壇についても充実させる。 |
| 読書指導 (図書情報部) | ①来館者、貸出冊数の増加 ②図書委員会の活発化 ③図書館の環境整備 | 正しい利用方法を指導する。 良質な読書環境をつくる。 館内の蔵書点検・整理を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 入学時のオリエンテーションで、利用マナーの向上を図り、図書館利用の機会を増やす。 生徒の要望を知り話題の図書を早期導入する。 生徒図書委員会の活動内容を検討する。 |
| 情報化推進 (図書情報部) | ①ICT機器の活用 ②セキュリティポリシーの周知、徹底 ③教育活動の発信の活発化 | ICT機器の利用方法について研修を行う。 セキュリティポリシーの変更点を確認する。 ホームページの更新を迅速に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望を反映して、ICT機器の利用環境を整備する。 個人情報に関するセキュリティポリシーについて周知を行う。 更新の技術的なサポートを行う。 |
| S S H事業 推進 (S S H部) | ①S S H事業の充実 ②事業成果の普及 ③探究活動の指導体制づくり ④S S H事業の客観的評価の分析 | 既存S S H事業の魅力の向上と新規S S H事業の計画と実施 本校が地域の「知の拠点」として教育プラットフォームの役割を確立 教員の指導体制整備と外部人材の活用 客観的な評価ができる手法の分析、評価 | <ul style="list-style-type: none"> S S H事業では生徒が主体となり、生徒や卒業生が生徒に魅力を発信する事業として改善し、成果が共有できるものにする。 国内外の対面研修を再開し、より多くの生徒が参加する事業を開発する。 S S H学校設定科目「GIP」を関係分掌、学年と連携して実施し、適切に評価する。 「TSコース」カリキュラムのPDCAサイクルを、関係分掌、教科、学年と連携して実施する。 地域の中高生および教員が参加できる研修会や発表会を行う。 本校の開発教材を活用可能な形で外部へ広く公開する。 地域の産官学との教育コンソーシアム「知多探究ネット」を構築運用する。 教員の研究や教員間の研修制度の充実。 「知多探究ネット」を利用して、地域の教育人材や卒業生を活用した指導体制を整備する。 第三者的な視点から評価できるテストや非認知能力テストを用いて多角的で客観的な分析を行う。 |
| 学校関係者評価を実施する 主な評価項目 | | | <ul style="list-style-type: none"> 業務改善に向けた取組と多忙化の解消に向けた取組 学習指導における授業改善、特にICT環境の活用 S S H事業のさらなる事業の充実に向けた取組 |

(2) 令和5年度の学校評価

ア 自己評価結果等

| | | | |
|-------------------------|---|--|--|
| <p>本年度の 重点目標</p> | <p>育てたい生徒像として、「自らの将来を探究的に創造する人物)」を掲げる。 (1) 教職員の多忙化解消に向けた取組を行い、教職員が余裕をもって生徒に対することができる環境づくりをする。 (2) SSH事業における三つのプラン（トップサイエンティスト育成、アントレプレナーシップ育成、グローバルリーダー育成）による本校の強みを踏まえた知の創造を全校的に考えていく。 (3) 65分授業による「主体的、対話的で深い学び」を進化させ、「カリキュラムマネジメント」を意識した具体的な授業実践を行う。 (4) 高い志と高い進路目標を掲げて挑戦する気概と骨太の生徒を育む。 (5) 行事や部活動、普段の生活における、自主自律の健全な精神の伸張。美しい半田高校を保ち、様々な悩みを抱える生徒にきめ細かく、積極的に対応する。 (6) ICT機器等の活用を創意工夫し。効率的な授業を実践する・ (7) 小中学校や地域に生徒の活躍や本校の魅力を広報し、より志の高い入学者の確保に努める。 (8) 生徒一人ひとりの個性をより重視した教育を目指す。</p> | | |
| <p>項目(担当)</p> | <p>重点目標</p> | <p>具体的方策</p> | <p>評価結果と課題</p> |
| <p>サービス (教頭)</p> | <p>①在校時間等の状況記録の集計結果等を安全衛生委員会等で確認し、1か月の時間外労働時間が45時間を超えないよう教職員の健康障害防止に努める。 ②教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。</p> | <p>・会議、委員会を増やすことなく効率的に行う。 ・部活動ガイドラインの遵守に努め、教員自身の休養日を確保するように促す。 ・定時退校日を毎考査ごと長期休業中とする。</p> | <p>・学年主任らが意識して進行できたことにより、会議の時間は概ね短縮が図れた。 ・月間予定表を提出させることで部活動の活動状況の把握に努めたが、すべての部活動から提出を徹底できるまでにはいかなかった。 ・年休を積極的に取得しない、取得できない教員もおり、業務の分配が課題である。</p> |
| <p>学習指導 (教務部)</p> | <p>①33単位65分授業における「主体的・対話的で深い学び」の追究 ②新校務支援システムの運用方法の周知と効率化</p> | <p>・身に付けさせたい力を意識した観点別評価を軌道に乗せ、指導と評価の一体化を目指す。 ・授業アンケートや公開授業週間の改善を検討する。 ・授業の工夫や評価方法などの情報共有 ・効率的な運用を検討する。</p> | <p>・身に付けさせたい力を意識した取り組みは継続して行うことができた。また、会議での各教科からの話の中では、身に付けさせたい力や指導と評価の一体化を意識した発言が増えた。 ・授業アンケートではテーマを定め、各教科に検討してもらった。また、公開授業では身に付けさせたい力を意識した授業を保護者や小中学校の教職員向けに公開しながら改善に取り組むことができた。 ・情報共有の面においては効果的に進められたとは言い難い。</p> |
| <p>防災・式典 (総務部)</p> | <p>①防災・防犯体制の整備 ②諸式典の検討</p> | <p>zoomによる防災講話、防災避難訓練、帰宅班編制を実施する。自主的な避難訓練を実施する。 諸式典を、威厳を保ちつつ簡略化する。</p> | <p>・防災講話を実施し、被災地の復旧について生徒に考えさせることができた。 ・避難経路図を各教室に掲示し、自主的な行動を考えさせる避難訓練を行った。 ・防災時の行動マニュアルを職員・生徒ともに周知させることができた。 ・卒業式を第2学年は式に参加し、第1学年へは教室にズームで配信した。厳かな式にするための工夫を次年度も考えていく。</p> |
| <p>生徒指導 (生徒指導部)</p> | <p>①基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成 ②部活動の活性化と学業との両立 ③交通事故防止 ④ひいらぎ特別支援学校との交流活動の推進 ⑤いじめの未然防止に係る取組の充実 ⑥いじめの早期発見、適切な事案対処</p> | <p>規則正しい生活習慣を確立させる。 携帯電話等の使用ルールを厳守させ、利用モラルを向上させる。 練習時間の確保と効率的な練習を追究させ、学業との両立を図る。 自転車通学者の交通事故防止に努める。 交流活動のさらなる充実を図る。 全校集会や学年集会、ホームルーム活動において、友情や基本的人権に対する理解を深め、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 「いじめ・不登校対策委員会」の役割を具体化し、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者</p> | <p>・効果的なタイミングで出欠統計を還元し活用していただいた。欠席・遅刻過多生徒への個別指導を実施した。 ・校内での携帯電話等のルール厳守の徹底に努めたが、少なからず指導を受けた生徒がいた。 ・生徒は効率的な練習を行うことができた。 ・登校指導、下校指導、講話、掲示物等を通じて、交通事故防止の啓発に努めた。 ・ふれあいタイムなどコロナ禍前と同等な活動ができた。 ・生徒がいじめ問題について主体的に考え、自らに関わる問題として捉えられるようになった。 ・「いじめ・不登校対策委員会」の役割を生徒や保護者に周知することができた。また、生徒が安心して学校生活を送ることができるような環境づくりができた。 ・アンケートを生徒が記入しやすい様式で実施した。また、記述内容に考慮した形で回収を行った。今年度はアンケートの結果いじめを訴</p> |

| | | | |
|---------------------------|---|---|--|
| | | にも周知する。 いじめアンケートの実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、適切な対応につなげる。 | える生徒はいなかった。 ・対応の難しい事案に対し、学年、保健部と連携し効果的な対応ができた。 |
| 進路指導 (進路指導部) | ①挑戦の志の育成 ②進路データの活用 ③補習の充実 ④情報発信 | 引き続き最難関を目指す生徒を増加させる。 進路指導に関わるデータの活用促進。 志望大学を意識した講座の開講。 進路だよりを活用して情報発信を行う。 | ・大学別模試では積極的な参加が見られた。 ・実力テスト、外部模試をまとめた個人用資料を作成し、活用した。 ・補習受講者数、補習受講率はここ数年減少している。 ・進路だよりは毎月の発行を目指したが、実現できなかった。内容の精査が必要である。 |
| 保健・安全・ 環境教育 (保健部) | ①心身の健康の増進 ②危険を予測し安全に行動できる能力を身につける。 ③環境美化に努め学習環境の向上を図る。 | 健康観察に努める。 感染症予防。熱中症対策。 A E D講習会・校内安全点検・危機管理に対する取組を実施する。 ゴミの分別と減量化、資源のを推進する。 | ・毎日の健康観察表を活用し、早期発見、早期対応に努めることができた。今後の状況に合わせて形式を変えていければよい。オンライン化も視野に入れる。 ・学級閉鎖、学年閉鎖により感染症の拡大を防止することはできた。次年度は、感染症予防に重点をおく。 ・職員間での情報共有について呼びかけ、一人で抱えない体制づくりをめざす。 ・相談室の整備や清掃ロッカーの整備など使用しやすい環境づくりを進める。 |
| 読書指導 (図書情報部) | ①来館者、貸出冊数の増加 ②図書委員会の活発化 ③図書館の環境整備 | 正しい利用方法を指導する。 良質な読書環境をつくる。 館内の蔵書点検・整理を行う。 | ・入学時のオリエンテーションで、利用マナーの向上を図り、図書館利用の機会を増やすことができた。 ・生徒の要望を知り話題の図書を早期導入することができた。 ・生徒図書委員会の活動を活発化することができた。 |
| 情報化推進 (図書情報部) | ①ICT機器の活用 ②セキュリティポリシーの周知、徹底 ③教育活動の発信の活発化 | ICT機器の利用方法について研修を行う。 セキュリティポリシーの変更点を確認する。 ホームページの更新を迅速に行う。 | ・ICT機器の研修を多く行うことができ、利用機会も多くなった。 ・個人情報に関するセキュリティポリシーの周知に務めることができた。 ・ホームページの迅速な更新と内容の検討を行うことができた。 |
| S S H事業 推進 (S S H部) | ①S S H事業の充実 ②事業成果の普及 ③探究活動の指導体制づくり ④S S H事業の客観的評価の分析 | 既存S S H事業の魅力の向上と新規S S H事業の計画と実施 本校が地域の「知の拠点」として教育プラットフォームの役割を確立 教員の指導体制整備と外部人材の活用 客観的な評価ができる手法の分析、評価 | ・生徒が主体となり、生徒同士や地域に発信する機会ができたが、他校生徒の参加の少なさが課題である。 ・国内外の対面研修を再開し、多くの生徒が参加する事業を実施できた。 ・S S H学校設定科目「GIP」を実施し、登録生徒を適切に評価し単位修得を認めた。 ・次年度の「TSコース」の実施に向け各教科内で開発を進めた。特定の教員に負担が集中しないように教科内での共有が課題。 ・地域の教員が参加できる探究発表会、情報交換会を行うことができた。 ・地域の産官学と連携したり支援を受けることはできたが、教育コンソーシアム「知多探究ネット」としての活用方法が課題。 ・教員間で探究活動の指導方針を共有する機会の拡充が課題。 ・「知多探究ネット」の活用は限定的であるため、活用を促進する。 ・第三者的な視点から評価できるテストや非認知能力テストを用いて多角的で客観的な分析を行った。 |
| 学校関係者評価を実施する 主な評価項目 | | | ・業務改善に向けた取組と多忙化の解消に向けた取組 ・学習指導における授業改善、特にICT環境の活用 ・S S H事業のさらなる事業の充実に向けた取組 |

イ 学校関係者評価結果等

| | |
|-----------------------------|---|
| 学校関係者評価を実施した主な評価項目 | 学習指導（65分授業における主体的・対話的で深い学びの追究）、生徒指導（遅刻）、広報（ホームページ）、生徒の遅刻状況・対応 |
| 自己評価結果について | <ul style="list-style-type: none"> ・学年からの報告で、「遅刻、欠席が多い」というものがあり、残念に思った。時間を守る事の重要性は以前にも意見を述べたが改善しない。 ・補習の受講率の低下が問題である。 |
| 今後の改善方策について | スクールカウンセラーの活用が増えている点について、カウンセラーと繋がる前に、担任や養護教諭が話を聞くことが大切であると思う。生徒のコミュニケーション力の低下についても配慮してほしい。 |
| その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望） | 評議員会の位置づけについて明らかになるものを資料に入れてほしい。 |
| 学校関係者評価委員会の構成及び評価時期 | 構成…学校関係者評価委員 5名（学校評議員 4名とPTA会長） 時期…9月上旬（中間→中止）及び3月5日 |

(3) 経営管理上の問題点等

- ア 教員がさらなる「主体的・対話的で深い学び」について追究し、教科指導の充実に向けた研修・研鑽を積み、生徒個々の進路目標達成への援助を行う。ICT機器の活用を推進する。
- イ 心身のバランスを崩す生徒のフォローを注意深く行う。
- ウ SSHを中軸に据えた「探究活動」を活かした学びを推進をする。
- エ 附属中学校創設へ向けて、高校との連携について考えていく。